

西洋批評論Ⅱ

科目ナンバリング EUS-302

選択 2単位

藤田 敏明

1. 授業の概要(ねらい)

基本概念は前期と同じですが、後期は、近代ヨーロッパにおける「自我の確立」、さらには深層心理研究の発達における各種コンプレックス、そこからの「自我」の崩壊——いわゆる「アイデンティティ」を主体として授業を進めます。それは必然的に「人間とはどういうものか」という、「根源的問いかけ」にならざるを得ません。

2. 授業の到達目標

人文学——ヒューマニティにおける基本的命題、「人間とは何か」に対する問いかけを自らの言葉でなしえて、それに対する回答を「模索」できる、「人間存在」たりうること。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の授業時の小レポートにおける授業内容理解55%、期末レポート45%、ただしレポート提出は必須。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は指定せず、教員のハンドアウトと映像で授業を進めます。参考文献は適宜指摘。

5. 準備学修の内容

授業前には、西洋人文学の基本的常識を身に着けておくこと、授業開始後は、ヒューマニティを学ぶ人間としての自覚を持つこと。(授業のタイトルがタイトルなので、思い切り大上段からの要求です)

6. その他履修上の注意事項

人間とは何か、何のために生きているのか、という、いわば「非日常的な問いかけ」をする授業です。例えば就職などの実際の事柄に「すぐ役に立つ知識」を身に着けるということではなく、「深く考える」態度をはぐくむ場です。

7. 授業内容

- 【第1回】 前期report返却および講評。後期の基本的方針。デカルトから始まる「近代的自我」の定義づけ。
- 【第2回】 フロイト「精神分析入門」深層心理、潜在意識、「オイディプス・コンプレックス」
- 【第3回】 悲劇「オイディプス王」前半
- 【第4回】 後半
- 【第5回】 「生きるべきか、死ぬべきか」--悲劇「ハムレット」前半
- 【第6回】 後半
- 【第7回】 人間そっくりの「人形」--バレエ「コッペリア」前半
- 【第8回】 後半
- 【第9回】 21世紀初めの今、すでに現実化しかけている「クローン人間」ー「ブレードランナー」前半
- 【第10回】 後半
- 【第11回】 西洋から見た「東洋」--オペラ「トゥーランドット」前半
- 【第12回】 後半
- 【第13回】 西洋から見た東洋——バレエ「パヤデール」前半
- 【第14回】 後半
- 【第15回】 日本SFにおける「人間」と「人間でないもの」あるいは「その中間」